

令和3年度 学校自己評価

重点目標	学校努力点 響く心 実る力 － 認め合う心と豊かな表現力の育成 －			
	努力目標	重点項目	主な取組内容	評価結果と課題
学習指導部	互いの考えや価値観を共有しながら、よりよい自己の創造に向かうことができる生徒の育成	○「なかまなビジョン」に基づく授業の工夫 ○基礎的・基本的な学力の定着のための基盤づくり	○ITC 機器の活用 ○表現力につながる読む力・書く力を高める活動	家庭学習の課題などにもタブレットを活用する内容を取り入れた。その結果、79%の生徒が学習内容を理解できていると回答している。しかし、コロナの影響によって対話しながら考えや価値観を共有する場面は少なかった。このような課題に対しては、タブレットを活用し、解決できる方法を探っていく。
進路指導部	自己の将来を見据え、解決すべき課題を見つけ、取り組むことができる生徒の育成	○進路への関心 ○進路の主体的な設定と決定	○SDGs の学習 ○職業学習 ○教育相談、進路相談 ○進路決定 ○キャリア・パスポートの作成	SDGs（持続可能な開発目標）の学習では、それぞれの目標についてグループで調べ、発表を行った。また、学校行事等で学んだことをワークシートに書き、キャリア・パスポートとして綴じることで、生徒のキャリア形成に生かした。3年生は、積極的に上級学校への参加をすることができ、自分の進路について考えるきっかけとなった。今後は、目標とする進路実現に向けて、どのような努力をすべきか考える実践も行いたい。
生徒指導部	○服装や持ち物、時間など学校のルールを守って行動する規範意識を高め、集団の一員として自らを律した生活ができる生徒育成	○授業規範の確立 ○基本的生活習慣の定着 ○いじめの予防 ○不登校生徒への対応	○チャイム着席の呼びかけ ○挨拶運動 ○いじめに関する指導 ○SCや子ども応援委員会など、外部機関との連携	室長などからの声掛けもよく見られ、ほとんどの生徒が余裕をもって、朝の活動や授業に取り組むことができている。また、生徒会活動の取り組みもあり、積極的に挨拶をする生徒の姿がよく見られる。一方で、SNS上でののからかいや人間関係のトラブルがあった。また、学校のルールから逸脱する生徒も一部見られた。正しいことを判断して行う実践力を育ませていくことが必要である。 近年不登校生徒の増加が課題となっている。専門家からの確にアドバイスを受けながら、一人一人に寄り添った指導を進めていきたい。
保健指導部	自分の体を自分で守ることのできる生徒の育成	○新型コロナウイルス予防 ○熱中症予防と対策 ○かぜ・インフルエンザ等の冬の疾病予防	○朝の健康観察 ○マスク着用とこまめな手洗い ○思春期セミナー ○薬物乱用防止の標語 ○換気強化週間3	毎朝、担任による健康観察を行った。また、保健だよりで登校前の健康チェックをするよう呼びかけた。 保健室利用のルールは守られている。利用状況は、6月が一番多かった。内科的な症状の内30%が「悩み・相談」と多かった。 委員会活動では、1月に集会で自然免疫力について発表を行った。また、換気チェック活動に取り組んだ。 健康診断後に配付した受診勧告の回収率は歯科で昨年度よりも7ポイント以上上がったが、2割程度と低い。回収率が増加するように呼びかけたい。
特活指導部	自主的・主体的に学校生活を送り、集団生活の中で個性を生かす力を身に付けることができる生徒の育成	○年間計画に即した生徒委員会の運営 ○生徒の手による行事の運営 ○生徒が互いに協力する場の設定	○各委員会の活動 ○学年体育大会の実施	学校生活アンケートの「行事等の活動に自主的に参加できましたか」という項目に対して90%以上の生徒が肯定的に答えている。これは、生徒が自主的・主体的に学校生活を送るために、委員会や執行部を中心に様々な生徒会活動を行った結果だと考える。しかし、「行事等の活動の中で自分のよさを発揮できましたか」という項目に対して肯定的に答えた生徒は70%にとどまった。この数値については、30%の生徒がまだ自分のよさを発揮したいと考えていると考え、来年度は全ての生徒が自分のよさを発揮できたと思えるようにしていきたい。